

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度  
 課題番号：18591975  
 研究課題名（和文）創傷治癒過程における遊走表皮細胞の細胞接着分子発現の経時的変化について

研究課題名（英文）The time course of human keratinocytes during wound healing

研究代表者 森口隆彦  
 川崎医科大学・医学部・教授  
 研究者番号 10111816

研究分野：創傷治癒

科研費の分科・細目：

キーワード：創傷治癒、細胞増殖因子、急性創傷、慢性創傷、褥瘡、下腿潰瘍、熱傷

#### 1. 研究計画の概要

生理活性物質であるインテグリンの表皮細胞増殖に関する研究

#### 2. 研究の進捗状況

急性創傷におけるある種のインテグリンの発現は報告された

#### 3. 現在までの達成度

やや遅れている

#### 4. 今後の研究の推進方策

慢性創傷におけるインテグリンの発現は見られないが、これが血流不足なのか、そのものがないのかの追求が必要である

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

○森口隆彦：褥瘡と創傷治癒、臨床栄養 112：619-622、2008.

○森口隆彦：褥瘡の診断と創部のアセスメント、臨床栄養 112：629-638、2008

○森口隆彦：創傷治癒のメカニズム、形成外科 51：5-17、2008.

○森口隆彦：分かりやすい創傷治癒理論と治療の実際、日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 11：1-10、2007.

○森口隆彦：褥瘡創面評価、EBMジャーナル 8：38-44、2007.

○ Kubo M, Moriguchi T, et al：Transduction of  $\beta 3$  integrin subunit cDNA confers on human keratinocytes the ability

to adhere to gelatin. Arch Dermatol Res 299:13-24, 2007.

○漆原克之、森口隆彦：創傷形態から見た処置法、挫滅創、剥脱創、形成外科 49：63-66、2006.

○久保美代子、森口隆彦：ケラチノサイトの細胞増殖にbFGFの効果について、皮膚の科学 5：16-20、2006.

○篠山美香、森口隆彦：真皮フィブロネクチン発現パターンと遊走表皮先端部形態の相関について、川崎医学会誌 31:167-173、2005.

〔学会発表〕（計 5 件）

○森口隆彦：創傷管理の昨日、今日、明日、第 18 回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会、2009.5（仙台市）

○森口隆彦：最新の創傷治療理論と実際、平成 20 年度皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程公開講座、2008.11.（福岡市）

○森口隆彦：新しい創傷治療法、東京大学アドバンスド創傷ケアセミナー、2008.10.（東京都）

○森口隆彦：創傷治癒のメカニズムと創傷管理、第 81 回日本ハンセン病学会総会・学術大会、2008.5.（熊本市）

○Moriguchi T：Assessment of pressure ulcers - DESIGN: a new assessment tool - European Pressure Ulcer Advisory Panel, 10th Anniversary EPUAP Open Meeting, 2007.8. (Oxford, UK)

〔図書〕（計 3 件）

○森口隆彦編著、波利井清紀監修、2005.4 創傷の治療、最近の進歩、克誠堂出版 東京

○森口隆彦、鳥居修平、中塚貴志編集、波利井清紀監修、2007.7、TEXT形成外科学第2版  
南山堂 東京

○森口隆彦、真田弘美 編集、2008.8. 褥瘡ポケットマニュアル、医歯薬出版株式会社  
東京

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕